

日本地震工学会
津波等の突発大災害からの避難の課
題と対策に関する研究委員会

活動概要

委員長 後藤洋三

研究委員会のプロフィール

- 地震発生から一時避難場所に行くまでの避難を対象とする。
- 分野横断的学会である日本地震工学会の特長を生かす。

取り上げた研究課題

- 東日本大震災における津波避難の調査データの整理、分析、公開と知見の発信
- 首都直下地震とそれが火災・洪水と複合化する場合の避難の課題
- 防災教育と避難対策分析のツールとしての避難シミュレーションの利用促進
- 低頻度である巨大災害からの避難の事例をより多く収集するための海外との情報交流

活動の概況

- 設置期間 2012年8月～2016年3月
- 委員数 委員38名、オブザーバ2名
- 委員会開催回数 20回、Web会議システムを併用
- 研究活動 4つの部会を設置して実施
 - 津波避難部会(部会長 佐藤誠一)
 - 都市避難部会(部会長 久田嘉章)
 - 避難シミュレーション普及部会(堀 宗朗)
 - 国際交流部会(村上ひとみ)

研究委員会全体としての活動(1)

- 学会におけるオーガナイズドセッションの開催
 - 2012年と2013年の日本地震工学会年次大会
 - 2014年第14回日本地震工学シンポジウム
- ワークショップ(研究報告会)の開催
 - 2013年3月 ワークショップ「命を守る避難の課題」
 - 2016年5月 この最終報告会
- 論文集特集号の企画編集
 - 日本地震工学会論文集第15巻5号(特集号「津波等の突発大災害からの避難の課題と対策」)を2015年10月に発刊

研究委員会全体としての活動(2)

- アウトリーチ活動: 震災対策技術展でカバータイトルを「命を守る避難の課題」としたセミナーを継続的に開催
 - 2014年横浜、2月7日
サブタイトル:「命を守る避難の課題」
講師:後藤洋三、久田嘉章、末松孝司
 - 2014年大阪、6月18日
サブタイトル:「巨大地震災害に大阪はどう立ち向かうか」
講師:関澤愛、水野智雄、小山真紀、奥村与志弘、三浦浩史、生田英輔

続き

- 2014年仙台、8月7日
サブタイトル:「次の津波からどう逃げるか」-渋滞リスクを減らす作戦を考える-
講師:瀬尾和夫、村上ひとみ
- 2015年大阪、6月5日
サブタイトル:「大阪地下街の安全対策は？」
講師:谷口与史也、水野智雄、井下泰具、久田嘉章、生田英輔、廣井悠
- 2015年仙台、8月6日
サブタイトル「命を守る津波避難のシミュレーション」
講師:堀宗朗、荒木秀朗、末松孝司
- 2016年横浜、2月5日
サブタイトル:命を守る津波避難のシミュレーション-災害時交通モニタリングと避難シミュレーションの最前線-
講師:桑原雅夫、荒木秀朗、末松孝司

研究資料・調査データの公表

- 以下の資料・データを研究委員会のWebページで公開
 - 避難シミュレーションソフト品質保証のためのV&Vマニュアル
 - 東日本大震災津波避難合同調査団(山田町・石巻市担当チーム)による1,235人についての避難行動調査データ

特記事項

- Web による会議システムを利用したことから Web 環境の整った会議室が必要となり、工学院大学久田教授のご尽力によりほぼ毎回、同大学の会議室を使用させて頂いた。
- 株式会社ベクトル総研より、研究寄付金(50万円)を日本地震工学会に寄付頂き、この研究委員会の予算に充当させて頂いた。
- 2016年度から「津波等の突発大災害からの避難における諸課題に対する工学的検討手法およびその活用に関する研究委員会(委員長:甲斐芳郎 高知工科大学)」が発足し新たな研究活動が展開される予定である。



龍馬が行くか？